



May 2019

2019年5月

JAPAN FORMALLY DECLARES OBJECTION TO SERVICE BY MAIL UNDER HAGUE CONVENTION

日本政府、送達条約の郵便送達につき 公式に拒否宣言

Japan has been a contracting state under the Convention of 15 November 1965 on the Service Abroad of Judicial and Extrajudicial Documents in Civil or Commercial Matters (“Hague Convention”) since 1970, but had never formally declared any objection to Article 10(a), which provides that, unless a contracting state objects, the convention shall not interfere with the freedom to send judicial documents by postal channels directly to persons abroad. Therefore, it had until recently been disputed as to whether direct service of judicial documents by mail to Japan is allowed because Japan had not declared such an objection to this provision.

Finally, however, in December 2018, Japan formally declared a formal objection to this provision. Therefore, going forward, it is clear that, unless another treaty applies, judicial documents being sent to Japan from a contracting state under the Hague Convention must be served through the Central Authority (Ministry of Foreign Affairs) of Japan, and may not be served directly upon the other party.

日本は、いわゆるハーグ送達条約（民事又は商事に関する裁判上及び裁判外の文書の外国における送達及び告知に関する条約）に加盟し、加盟国間での訴状その他裁判文書の送達はこの条約に従って行われています。

送達条約10条(a)は、加盟国が拒否宣言をしない限り、加盟国にいる者に対して直接に裁判上の文書を郵送する権能を妨げない、と規定していますが、日本政府は、これまでこの条項について公式の拒否宣言をしていなかったため、外国の裁判に関する書類を日本の被告に対して直接郵送することが有効かどうか、長く議論されてきました。

この点日本政府は、10条(a)について拒否宣言をしていないのは、外国からの郵送による送達があってもそれを日本の主権侵害とはみなさないというだけであって、それを日本における有効な送達とみなすものではない、という立場を表明してきましたが、外国においては、「公式な拒否宣言ができるのにしていないということは、郵送による送達も少なくとも裁判が継続している国から見れば有効だ」という見解もあり、混乱が懸念されていました。

このような中、2018年12月21日、日本政府は、10条(a)についてようやく拒否宣言を行いました。これにより、長年の議論・懸念に終止符が打たれ、送達条約の加盟国間では、中央当局を経由したいわゆる外交ルートでの送達が必要になることが、明確になりました。

KITAHAMA PARTNERS

Masafumi Kodama, Partner (Osaka Office)
Attorney (Japan, New York)
Tel: 81-(0)6-6202-1088
MKodama@kitahama.or.jp

北浜法律事務所・外国法共同事業

児玉 実史（大阪事務所）
パートナー
弁護士（日本・ニューヨーク州）
TEL: 06-6202-1088
MKodama@kitahama.or.jp